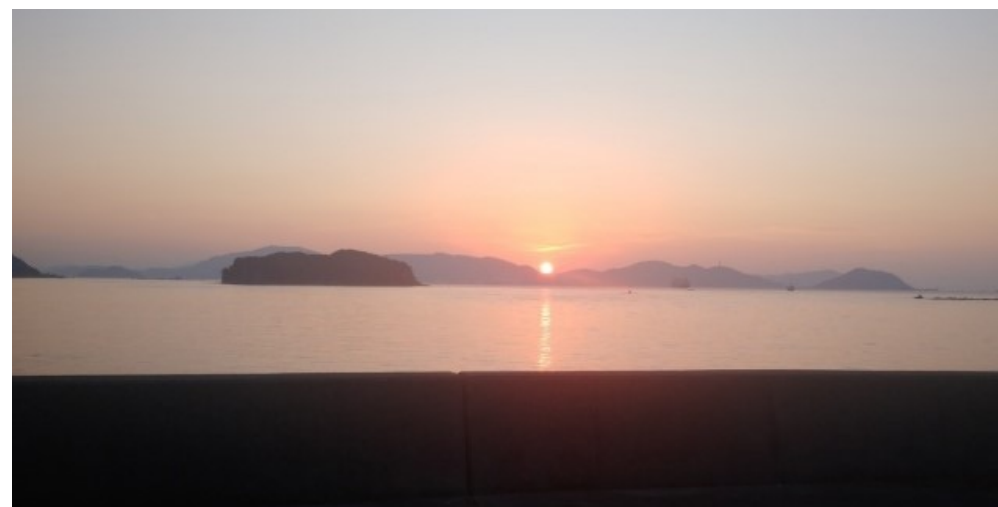


大津島データ 159世帯
人口 219人 男 89人 女 130人
高齢化率 79.4%
(令和2年11月30日現在)



題字：末兼南子さん イラスト：大津美子さん



写真撮影：野間 久生



令和3年元旦

大津島地区コミュニティ推進協議会

会長 安達 壽富
事務局長 沖 武士



皆様には健やかに
新年をお迎えのことと
お慶び申し上げます

昨年、新型コロナウイルス感染拡大の防止に伴い、行事が次々と中止になりました。11月、にぎやかにプチ島マルチエが開催されましたが、今後も見通しがつかない状況です。早く終息を願いたいところです。まずは、島内の感染が第一です。皆さん、コロナに負けないようにしましょう。

本年も地域とのつながりを大事にしながら取り組みを進めてまいります。引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

新しい年が皆様にとって幸多い年でありますよう心から祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



謹賀新年



文川回天記念館 三崎 英和

私の自宅は大津島の対岸、福川地区にあります。通勤には自動車を使い、通称、産業道路（イオンタウン周南の前の道）を通って、徳山港まで行きます。

その間には信号機が21か所あるため、平日の朝は、工場へ通う車やトラックなどで大混雑です。しかし、日曜祝日の朝は車もまばらで、1年に一回くらい、一度も信号に引っかからないで徳山港に到着できる日があります。そんな日は「ラッキー」、今日は何かいいことがあるかも」で一日が始まります。

また、巡航船で船外を眺めていると、カップヌードルの容器が上部を上にしたまま、大津島の沖合を浮いているのを見かけることがあります。



イラスト 三崎 英和

方々が安定しているため、立つたままの状態にいるものは希少ですよ。こんな時も「今日は珍しいもの見ちゃった。」で一日が始まるのです。

そんなことがあった日、その後、何かいいことがあったかと振り返ってみますが、何ら特別なことが起きた記憶はなく、いつもと同じ、平凡な一日で終わっています。でもそんな日々ですが、事件や事故に巻き込まれることなく、平穏な時間が過ごせることはとても貴重なことかも知れませんが。

皆様にとっても新年、安らかに暮らせる日が送れますようお祈りいたします。

若潮の会通信 No.37

2020年 秋のプチ島マルチエ

11月8日、朝7時40分発、馬島行の定期船に乗船。天気良し!! 個人的には盆以来の帰島でしたが、今回は、プチ島マルチエという催し物があり、嫁さん共々初参加させてもらいました。馬島に着くなり、椅子・テーブル・テントなどをコロナの事もあり、場所及び間隔を考慮しつつ配置し、鍋・水・火種など：ともかく準備完了。（初対面の方、久しぶりに出会う後輩に時に笑顔あり）それからしばらく経つと思つた以上に人々が集まり（失礼かな）にぎやかなひと時を過ごし、約2時間のイベントでした。しばらくし、片付けも終わり無事なんとか終了。来年はコロナも終息し、もっと活気あふれ、島内外から多くの方々が興味を持ち参加して頂ければなと一人思いをはせる。

ふるさと大津島を想い、若潮の会メンバーをはじめ、地域の方々と共に島を元気づけ、勇気づけ、活性化（少しオーバーですね）させ、いつでも帰れる、帰りたいくなる、大津島にしたいな！共に発し、行動し、向かって行こう。最後に気付きです。会場の火元の安全確保・風の対策・ポットなどの準備・人員配備など少しばかり検討の余地あり。余談ですが芋1か月の保管でより一層美味しくなりました。失礼しました。

若潮の会 芋の天ぷら無料配布中

文川石田 信夫



10月24日（日）、馬島漁港岸壁・海底清掃が行われました。当日は天候も良く、若い力も加わり、ごみの運搬等スムーズに終了しました。馬島・天浦・柳浦地区の自治会・若潮の会・徳山大学・釣り団体協議会等の皆さん、本当に疲れ様でした。



文川原田 和保

行事報告

● 令和2年度 建国記念奉祝行事・大津島文化祭

令和3年2月に開催を予定しておりました建国記念奉祝行事及び大津島文化祭は、新型コロナウイルス感染拡大の防止に伴い、中止させて頂くこととなりました。

ひろしの
つぶやき

文＝屋野 廣志

少子高齢化の実態に日本人の寿命100才を超える者6万人と報ずるその内8割が寝たきりとは、医学の進歩か食料の良さか個人の健康に対する意識の高まりか。

私の義母は、99才で死亡。実子10名を出産し、40才で夫と死別し時後、土方人夫として生計を立て、土方人夫には似合わず、たくましさも無く飄々とした姿は、常に自分の置かれて居る位置を宿命と処理し、病氣もせず老後は新興宗教に入信した後、信者の先輩男性と生活を共にし、その男性の死をも見取り、生前に成長した実子5名にも先立たれ、自力自活で他に頼る事も、実子にも何一つ求める事も無く、自分の事は全て自力の義母の姿を現在叫ばれて居る新型コロナ禍で母子家庭を救いえ声を子供の充分な食もあたらぬ子供供の成長を拝み、戦禍を知り食糧難とも闘い(たたかい)、貧乏の苦しみを体で知る。

義母は、昭和を生きた母親の姿だ。宿命とあきらめ、求めるを知らず頼りとする長女の死を聞き、3日後に命の灯を消した。

生前より望んで居た信者仲間のねむる共同墓地へと信者仲間に見守られながら残る子供達にその足跡も残さず、残る子供達はその母の命日も知るや知らずや静かに千のそよ風となって新型ウィルスを見守ってくれるか・・・。(原文のまま)

知っちゃうかな

回りの時代は



文＝松本 千恵子

一年で一番寒いこの季節。去年の今頃は何をしていただろうと考えた。まだ、コロナも対岸の火事のように、香気に正月を迎えていた。まさか、この年が未曾有の厄災に巻き込まれるなどとは、夢にも思わず、今迄の時代をそのまま次の世代に手渡せると思っていた。

ひとつの時代がかくも簡単に終わるのだと、そしてその最中に私達は立っている。まさか終戦の頃ほどではあるまいが、時代の狭間に今、私達は居るのだと気づく。その時代は何であったのか、私達は周りの者達に語っておかねばと思う。

まだ、自分は若いつもりで、昔の生活を残して置かなければと、島の方々に話を聞かせて頂いた事もあった。

聞かせて頂いた話はどうにか纏めて、小さな冊子にでも出来たらと思っていたが、手をこまねくばかりで、遅々として進まない。

そんな事をしている内に、時代は大きく変わろうとしている。

私は私の時代を誰にどのように話すのだろう。島の皆さま、周りの人達と昔話を沢山しておいて下さい。周り回って島の歴史を繋げていく事になると思います。

それから、聞かせて頂いた話は、このまま一人で持っているのは、余りにも勿体ないので、ネタに困った時には、この紙面で発表させていただきますね。

プチ島マルチェ報告

快晴。折からの強目の海風も心地よく感じる令和2年11月8日(日曜日)、大津島馬島地区でプチ島マルチェが開催されました。

コロナ禍で外に出る機会の少なくなった島のお年寄りや住民、そして観光客の皆さんに少しでも元氣になってもらおうと、若潮の会(出身者の会)代表の野間さんの提案で、若潮の会・古城活魚・島食堂ひなたの三店が出店することになりました。主催はプチ島マルチェ実行委員会、後援は大津島地区コミュニティ推進協議会です。コロナ対策をしながらの開催は人数制限等難しい問題もありましたが、無事終了することが出来、スタッフ一同ホッとした思いと、小さな小さなイベントながら、参加者の方々のたくさん笑顔が見られて本当に良かったという思いでいっぱいになりました。



文＝プチ島マルチェ実行委員会



ました。来年こそは、もっと大きな本格的なイベントとしてのマルチェの開催を望んでいたスタッフ達ですが、皆さんもご存知のように、最近またコロナの勢力がぶり返し、以前の頃以上に予断を許さない状況です。それでも、いつかまた青い空の下での開催を夢見て、諦めずに進んで行きたいと思えます。皆さん、どうぞよろしく願います。

桜木・大津島地区民児協交流会

文＝大津島地区民児協事務局

令和2年10月24日(土)シビック交流センターにて、桜木地区と大津島地区の民児協交流会が開催されました。

桜木地区からは民生委員10名、児童委員2名の計12名、大津島地区からは民生委員4名、児童委員1名、事務局職員1名の計6名の方が参加されました。

最初に全員で信条を唱和し、その後両地区会長の挨拶、両地区の概要説明を行った後、本題のテーマに沿った意見交換が行われました。

高齢者の身内の方への対応については、それぞれの地区で発生した事例を発表することで、今後の対応の仕方について積極的な意見交換が行われました。

出席された民生委員の方々は担当地区の高齢者の状況をきちんと把握されておられましたが、民生委員や近隣住民と距離を置くとする高齢者の対応に苦慮するケースがあることも分かりました。コロナ禍における見守り活動については、まだまだ終息には時間が掛かりそうなので

積極的な見守り活動は慎重になるが、感染防止のためのマスク・消毒等に気を付けるという認識を共有しました。

周南市の中でも有数な住宅地である桜木地区と離島で限界集落の大津島地区とでは生活環境が全く違いますが、それぞれの地区の特色や課題があり、民生委員や児童委員の役割がますます大事になることを感じました。

意見交換後には親睦を深めるために、各委員の紹介や全員での記念写真、食事が行われ、楽しく有意義な交流会となりました。



伊保庄・大津島地区民児協交流会

文＝地区民児協事務局

令和2年11月12日(木)回天記念館研修室にて、柳井市伊保庄(いほのしょう)地区と大津島地区の民児協交流会が開催されました。

伊保庄地区からは民生委員8名、児童委員2名、柳井市社会福祉課職員1名、伊保庄出張所所長1名の計12名、大津島地区からは民児協会長、事務局職員1名の計2名の参加となりました。

両地区の概要説明の後、それぞれの地区の特色や課題について活発な意見交換が行われました。

意見交換後には回天記念碑の前で出席者全員の記念写真撮影が行われ、有意義な交流会となりました。

★探しています ※ふれあいセンター用の冷蔵庫を譲って下さい。

お知らせ

【次回潮流発行予定日】
3月1日 第278号【1月～3月の主な島の行事予定】
1月29日(金) 税の申告相談

善意銀行へのご寄付ありがとうございます

▼預託者 安達 シツ子 様
夫 安達 雪夫 様の香典返しとして
金5万円(市社協1万円、大津島社協4万円)

移動図書館 やまびこ号ジュニア

1月23日(土)、2月26日(金)

馬島11:30～ 刈尾12:20～

【編集後記】

明けましておめでとうございます。昨年は、新型コロナウイルスという厄介なウィルスが全国を駆け回り、いまだに終息の出口が見えておりません。今年も行事・イベントはどうなるのかな…。島民の安全を願うと同時に少しでも明るいニュースが来ますように願いたいです。
文責：原田 和保